

平成27年度第4回帯広市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時：平成28年2月26日（金）午後3時00分～午後4時30分

場 所：帯広市役所10階第5A会議室

出 欠：出席 16名、欠席 1名 事務局 4名、委託事業者 2名

会議概要

1. 開会

（森田事務局員）

平成27年度帯広地域公共交通活性化協議会を開催いたします。

本日は17名中、16名ご出席をいただいております。規約第6条第2項による過半数の出席があることから、会議が成立していることを報告致します。

（中尾会長）

前回の会議では調査の中間報告と、それを踏まえた計画の方向性について皆様にご意見をいただいたところです。今回の会議では、その後調査をしました冬期の調査を含め、予定していた調査がすべて終了しましたのでご報告をさせていただくとともに、調査結果を基に地域公共交通網形成計画の全体像と素案について、事務局で作成したたたき台についてご説明をさせていただき、皆様のご意見をいただきたいと思います。

2. 議事

（1）地域公共交通網形成計画策定調査の調査報告について

北海道開発技術センターより資料2と資料3と資料4の説明。

資料2についての質疑応答。

（長澤委員）

一番後ろにまとめている以外でOD調査を実施した結果について、もう少し補足的な全体傾向としての説明があると解りやすい気がします。

（北海道開発技術センター）

今回の対象としている便は、帯広駅をまたぐ路線を対象としており、駅を通過してまた戻ってくるという円を描くような路線になっております。その路線について、駅を通過して利用する方がどれくらいの人がいらっしゃるのかという部分で、あまりに長すぎる路線についての効率性はどうなのだろうかという部分を把握させていただくのが、大きな目的でした。秋期の時にはこういう形である程度、区間を分けさせてい

ただき、傾向を把握させていただいたと。やはり駅をまたいでも利用される方がいらっしゃるということが、データからも見て取れる。それから、今回のご説明資料にはありませんけども、アンケート調査からも駅をまたぐ路線というのは便利である。今のままがいいという回答があります。それらを考慮した上で、これから資料の説明もありますけども、地域公共交通網形成計画を策定し、以降、再編実施計画を作成し、バス路線の再編を念頭に置いて調査させていただいております。冬期の調査につきましては、推計というものがありますのでどうしても停留所の部分や OD 推計してしまうと、あまりにも大きな差がでてしまうだろうというところから、そこら辺は整理していなかったところではございますが、基本的には秋期の結果を基に再編の方向性というものを検討させていただきたいというところがございます。

(小森委員)

今回は駅をまたいで乗車する路線がメインの調査になりました。当社は駅をまたぐ路線は少ないのですが、十勝バスさんと大谷高校の通りから（駅をまたいで）音更に行ったり、上士幌方面に行ったりできる。ただ、大谷高校の通りから南に下がる路線はないだとか、今現状の路線でも利用者はいるんですけども、やはり乗り継いで利用されている方が想定されるのが多いのかなと。今は決まったルートしかないのです。拓殖バスから十勝バスに乗り継ぎたいお客様だとか、実態的にどれくらいいるのか。札幌ですと IC カードで簡単な乗継が出来ますので、そういったお客様が相当数いるのであれば環境も必要に感じる部分があるので、今後も乗継の実態だとかも判ればいいなと思いました。

(北海道開発技術センター)

現状で利用されている方の実態を今回 OD の方で把握させていただいているのですけども、仰っているとおり乗り継いでいる現状の部分につきましても、確かに必要なと思いますので、次の会議の時にはその部分も踏まえて乗継の課題というのでも整理させていただきたいと思います。

(加藤委員)

利用者属性の関係で冬の間、18 歳未満の割合が増加して、仕事での利用は冬の間は変わらないという事で大体そんな結果だよなという内容なんですけども、その冬期の調査によって帯広の特徴というのは、他の地区や地域と比べて何か特徴があれば教えてくださいたいと思います。

(北海道開発技術センター)

他の街との比較というところがございますけども、例えば秋期におきましても通学

については、他の地域と比べてある程度高いのかなと思っております。その上で冬期に増えるという現象は事業者様の方でそう抱えている感覚なのではないかなと思っております。

(長澤委員)

特徴として把握しているのは、夏場市内の各高校というのは自転車がとにかく非常に多い。各地域と比べてどうなのかな、地域によって自転車の文化があるのかなと。夏場でも全然自転車使わないよというような地域もあるのかなと。そういう意味では冬場は自転車からバスに乗り替わるというのは多いんですが、相対的にこれが他地域と比べて多いのかとなると、決してそうでもないような気もするんですよね。というのも、親の送迎がすごく多くて、他地域もそれなりに多いと思うんですけども、帯広の場合は特別に多いような気はしているんですよね。だから他地域でもそういった情報があれば、次回にでもどれくらいの子どもの親の送迎が多くて、夏場も自転車をどれくらい使っているのかとか。まあ郊外から市内に通う子どもはほとんどバスですけども。市内はほとんどね。下手したら帯広から、音更高校まで自転車で行っていたりとか、そこまですごい実態もあるので。自転車が悪いとかそういうことじゃなくてね。

(中尾会長)

道内であれば冬場の気候はほぼ同じ。雪が多い所と少ない所はあるかもしれないですが、やっぱり冬は自転車に乗らないですね。そういう意味では、道内で十勝といった特徴があればちょっと調べていただければと思います。

資料3についての質疑応答。

(長澤委員)

3ページ目の1月19日、白樺通りですと、三条高校前からの時刻があえて出ていますけども、調査対象はこれ1便だけという意味でしょうか。

(北海道開発技術センター)

頂いたデータの中でこの区間、白樺通りを運行しているルートの中で取得できたのがこのデータだけであったということです。

(長澤委員)

1便だけだったという事ですか。1便の結果が3～4分の遅れだったという事ですねか。

(北海道開発技術センター)

時間帯も想定していた時間よりもちょっと遅いという所もございまして、もうちょっと現状では遅れがあったのではないかと思います。

(長澤委員)

やっぱり自分たちの感覚では一番遅れられるのは12月なんですよ。降雪もあるんですけども、一般ドライバーも含めてまだ雪道に慣れていないし、渋滞する。やはりみんな怖いので、慎重な運転になって通常の出ない速度が出なくて進まない。12月になると慢性的に渋滞が起きる感じで、毎朝学校の方に20分遅れです、30分遅れですと電話するような実態がある。12月が一番遅れが出て、1月になると大分一般ドライバーも幾分、冬の道に慣れた運転に変わってきて、そんなに遅れが出てきていないのかなと。12月の1ヶ月間一番遅れが出る理由かなと思いますね。

(中尾会長)

今シーズンは11月末に大きなのが降って、その後は本格的に降らなかったから12月は比較的道路は乾いた状態だったかもしれないですね。ちょっとピンポイントな調査を持って、トレンドとして良いのかというのは確かにあるので、先ほどの説明の中でもあった継続的な観測というのがいいのかなと思いました。

(小森委員)

送迎の車が相当数あるんだろうなという認識はあります。1月になると冬休み15日で親御さんの送迎がなくなるのと、2月になると3年生が家庭期間に入りますので、余計に送迎が少なるだとか。そういった影響で1月末辺りが学生の全員登校する期間ですので、全部登校するのが12月とするという、そこら辺も混み合う理由があるのかなと。

(長澤委員)

冬休みになると一気に車が少なくなって、渋滞が緩和されて遅れもなくなるという。だから、変動はかなり大きいですね。調査する日によっても変わってくると思います。なので、長期間の課題として、1日2日のデータで、決めつけてはいないと思いますが、何かこれを見ていると影響がそんなにないような感じになってしまうので、そうでないところも含めて、残るようにしてくれると助かります。

(北海道開発技術センター)

資料の結果の一番最後の部分で書かせていただいたんですけども、今後も、今回い

ただいた形でデータをご提供いただけたら、継続的なモニタリングも出来るかなと思いますので、ご協力のほどよろしくお願ひします。

(佐藤暢委員)

さっき時間の事を言っておりましたがもう1点。白樺通の調査は競馬場前でデータが終わっていますが、この先のデータはないんでしょうか。

(北海道開発技術センター)

データとしてはございます。

(佐藤暢委員)

朝一番と言うとこの8時49分で始まっているんですけども、その前のデータはなかったのですか。

(北海道開発技術センター)

区間としてのデータはございます。時間帯としての前後のデータがなかったということでございます。

(佐藤暢委員)

区間としてないという事は、白樺通りについては実際に7時台が混むんですけども、そのデータはないという事ですか。

(北海道開発技術センター)

はい、時間帯前後のデータはなかったというところです。

(佐藤暢委員)

二車線道路なんで、多少雪が降っていても走れるんですけども、問題は東西線でも一車線道路が雪が降ると、かなり影響が出ると思うのでそのデータが欲しいです。

(中尾会長)

はい。ちょっとデータがあまりにもラフすぎるというか、もう少し密度が高い形で累積しないとトレンドしては少々不安が残るというね。それをちょっと検討してですね、配布していただけると。バス会社さんもちょっと協力をいただくことになってお願ひします。

資料4についての質疑応答。

(長澤委員)

総括表の事で聞きたいんですけども、優先度とかあるんですけども、このバス停を選んだ理由というのは何かありますか。

(北海道開発技術センター)

まずバス停を選んだ最初のポイントとしましては、市内のバス停全部を対象といたしまして、バス停に施設が近いものについて抽出をしたと。その施設というのが、商業施設だったり、医療施設だったり、行政施設だったりというところで抽出をかけさせていただいたんですけども、やはり道路によって際に近い施設という事でコンビニエンスストアが多く挙げられてしまったという事があるんですけども、そういった部分のバス停から概ね 75m 以内にある施設というのを抽出させていただきました。

(長澤委員)

そういう意味では、イトーヨーカドーが対象外になっているのは何か理由があるんですか。厚生病院だとか。長崎屋とかたくさんあるように思うんですけども

(北海道開発技術センター)

おっしゃる通りでございます。その辺につきましては改めて見直しを掛けさせていただきたいと思います。

(佐藤暢委員)

総括部分の大通 22 丁目について、施設活用の可能性があるとのことで、施設内待合施設ありというところですが、休むところがあるんですね。

(北海道開発技術センター)

最近の新しく立てられたコンビニエンスストアですと、数席程度ですけども座れるスツールのような椅子が置いてありまして、最近流行りの 100 円のコーヒーなどが飲めるスペースがあると。そういった定義をさせていただきました。

(佐藤暢委員)

それは可能性という事で、コンビニの方に話しをして、例えば、お借りできますかという事は聞いているんですか。

(北海道開発技術センター)

それはすべての施設共通でそれまでのお話はさせていただいていないという、あく

まで可能性のお話でございます。

(長澤委員)

そもそのここに出ている一覧の候補がこれでいいのかというお話。感覚的ですけどね、たくさんある中でももっともつとあるような。まあ今回は時間的には全部細かくは無理だと思うので、一部だけなんですよというならあれなんですけども、まだやっぱり大きな施設の前にはバス停がまだたくさんあるのでね、可能性というのはまだまだあるのではないかなと。

(2) 地域公共交通網形成計画の素案(たたき台)について

帯広市より資料5、資料6、資料7の説明。

(中尾会長)

まずは読んでみて素朴に感じる事ですか、ご質問、ご意見等いただければと思いますがいかがでしょうか。

A3ものがございますが。この点についてはよろしいでしょうか。資料6と絡んできますけども、観点が違いますので。資料5、資料6を眺めながら全体感の意見をいただければと思います。

(澤口委員)

私、教育委員会というところから、社会教育施設のような施設が街中、南ですと帯広の森があるんですけども。そういう施設の利用の増進を図る観点からも公共交通の公共施設との接続性について検討をいただければ。そういった視点でどこかに入っていると有難いと思います。

(帯広市)

ありがとうございます。公共施設もそうですが、観光施設をバスを利用して動けるというのはバスの使用促進にも繋がりますし、施設の方にとっても利便性向上につながると思いますので、そういった視点の整理をしていきたいと思います。

(齋藤委員)

一つ、地域住民からのお願いです。街の中はさておいて、地方に行くとバス停があってもほとんど休むところがない。こういう声が多いんですね。最近が高齢者が結構バスを利用して出ていく姿は見受けられます。けども、バス停で休むところがないと。立ってずっと待っているのは苦痛だと良く聞かされるんです。これについては

帯広は冬は雪の関係とかあるし、一つ一つ小屋を作って設置する場所もない。色々な問題があろうかなと思っています。見方の上では優しい思いやりのあるまちづくりからすると、そういう交通機関の待合的なもの。これが例えば、イスでも何十人も座るものでなくても良いから、一つか二つ腰かけていられるものがあつたら。バス停があつたら使わない時はしまつて、ちょっと使うときは出すという、そういうものはどうなのかという声はいただきました。いずれにしてもこれはお金の問題もありますし、場所の問題もありますから、一概に言えないと。これはバス会社に言うよりも、これは行政として街づくりの観点からも入れないかという声があります。ずっと資料を見ていた中で、バス停のところで休憩所の場所ね。そういうのは街の中をのぞくと無いというのが現状ですね。この辺は何か一本耳に入れておいて欲しい言葉です。地方の方の高齢者が良く言われる言葉です。そういうこと言われると、無理でしょうねって最初から言われる事もあるかもしれませんが、そうではなくてそういう一つの見直しをしている時に、そういった声も何とか生かされるような方法で検討してほしいという事でお伝えいたします。

(帯広市)

ご意見をいただいたようなバス停にイスを一つでも二つでも置いてほしいという言葉は、私のところに直接市民の方からご意見をいただいたこともございます。確かに今仰っていただいたように、管理の問題とか冬には雪の問題とかそういった事はあるんですけども、ただそうはいっても私も見ていて、寒い中、バス停の石の所に腰かけている方も見かけます。この資料6のところが一番右に記載されているところにバスの待合環境の整備というところがございまして、先ほどのコンビニと連携した待合整備も一つなんですけども、そうではなくてバス停の所にも少し椅子をあつたらいいなという事だと思いますので、2つ目の市民協働によるバス停の管理というところがございます。例えばですけども、地域の方が自分の身の回りのバス停について、皆さんが椅子を設置したりですとかそういう事例も一つとしてあると伺っていますので、そういったものも含めて考えていけたらなと思っています。

(中尾会長)

そういうことで何か良策があればということで、地域の人たちの協力も可能性があるというお話でございました。

(長澤委員)

網形成計画の素案という事で、策定して国に提出する時期というのは前回のスケジュールの中にあるかと思いましたが、もう一度どれくらいのタイミングだったか教えていただけますか。

(帯広市)

今後のスケジュールにつきましては、来月末に第 5 回の会議を開催いたしまして、それが今年度最後になります。そこで協議会としての素案としてまとめさせていただきたいと思うんですけども。平成 28 年度になってからは、広く市民のみなさんの意見を聞くためにパブリックコメントという形で意見を聞く期間を設けたいと考えております。いただいた意見を踏まえて、整理をした形でまだ予定ですけども、9 月くらいまでには形成計画として策定して国に報告したいと思っております。

(長澤委員)

なかなかこの網形成計画も難しいもので、僕ら自身も非常に難しいなと思っているんですけども、もしも運輸支局さんの方で全国の計画が出ていて、一度参考までにそれを真似をするという事ではなくて、色んな地域にある問題に対してこんな施策を打っているよいうものを、1 例か 2 例か。何か全体の中で協議するような場面があれば、こっちの方に入っていきやすいかなと個人的には思うんですけども。どうかなと思ひまして。こんな感じ出てますと。

(頼本委員)

全国的にはもう 80 と切りのいい数字でもう形成計画が出来ている形で、道内はまだ函館市さんが策定して公表しているんですけども、それに続いて千歳市さんとか、岩見沢市さん、帯広さんもそうですけども。そういうような状況でございまして、それぞれの街が抱える高齢化だったりとか、利用者減少というキーワードで行けば共通するものがあるんですけども。やっぱり地形ですとか地域性ですとかありますので、他地域を見ながら施策の作り方は真似をするというものではないですけども、利用促進としては参考になる部分がありますので、帯広市の事務局さんも色々先進的に研究されているでしょうし、これから形成計画を作る上で参考にするかと思ひますので。ただ、委員のみなさんに議論する場面が少ないので、あってもいいのかなと。あとは交通事業者さんがいざ実施する際に路線の再編ですとか、パスの共通化だとか、そういう部分でやっていく部分には交通事業者さんにはやっていただくウェイトが大きいので、そういった部分は協議会の中に情報共有なり情報交換といった形で進めていくことで、見通しが見えてくるのではないかと思ひます。

(帯広市)

今仰っていただいた通り、函館市さんがすでに作っていて私も見させていただいています。

(頼本委員)

あそこはどちらかというと街側ですね。歴史が古い街で電車とか交通網があって、電車の路線とかもある程度街が作られた中で、道路を拡幅しないと待合所も作れないとか、歩道に例えば待合所を作ったとか、屋根つきのシェルターを作っても、歩道の幅が足りないだとか、あそこも色々問題を抱えていたようですね。入り組んだバス経路は地元の人は慣れているので使いやすいんですけども、観光として外から人たちにとっては解りづらいとか。そういう観点から整理されているようなものなんですね。だから、それがすぐに帯広市さんに当てはまるかという別ですね。色んな観点から問題を抱えて、解決していくというやり方をしていますし。どうしても人口減少とか利用者減少に対して、どうやって利用増を進めていくかというのとか、インバウンド、外国人観光客の移動としてそれを取り入れるとか、そういうのはやってきているなどというのは感じていますけども。

(中尾会長)

着眼点として人口減少やインバウンドは共通した問題だと思うんですね。共通した課題と、仰るとおり地域性を活かした着眼点と大きく二つに分かれるような気がするんですけども。そういった意味で共通の課題のところは先行してやられているところは参考になるかもしれませんね。あとの地域性を活かした形成計画というのは、そこは腕の見せ所、知恵の出どころだと思いますね。地域の実情というのがございますからね。色んな施策的に人口減少の対策だとかですね。やはり何らかの形で情報をよりもっている方が我々も安心だし。みなさんもうちょっと時間あると思いますし。情報の方を我々の方で共有しながら、運輸局さんの方にも協力をさせていただきながら。よろしく願いいたします。

(頼本委員)

よろしいですか。60 ページで帯広市の現状と課題が整理されていて、63 ページには目標達成のための施策として目標数値が示されていますが、③の情報提供の強化が入っているのは、インバウンド観光ですとか観光客のお客さんがどれだけ増えていくかというかという課題を出されていくんですけども、目標数値にはそういう項目がないですが、今現状で外国人をすぐに増やせるような施策がある訳じゃないと思いますが、今後その将来的に資料6に出ている、例えば IC カードで外国人にもわかりやすくとするとか、例えばバス利用目的の創出としてバスパックも外国人向けに出すとか。外国人に限りませんが、観光客も含めて目標数値というのを決めておいた方が、役割としてこちらとリンク出来るのかなと思いました。

(帯広市)

観光の項目についても検討させていただきたいと思います。

(中尾会長)

観光課、今日来ていますけども。観光面で項目が出て、観光客のインバウンド対応だとか多言語対応だとか、その点は特に異論はないというか、いいですか。

(加藤委員)

そうですね。今、言われた外国人観光客についての明確な数字というのはないものですから、増加させていくんだということで、今やっているところです。

観光面につきましては乗り継ぎ拠点を西と東とで、今後そういう点でも整備するとの事でしたので、そういったものが出来ればより移動しやすくなるだろうと。また、その乗り継ぎ拠点があるということは、ロスタイムもあるということですから、Wi-Fi対応とか外国人観光客に重点的なものを整理させていただければと思います。

(中尾会長)

総合戦略にもインバウンド対応というか、交流人口は非常に大きな課題としてうちは捕まえていますので、公共交通機関の方と上手くリンクさせていくのは大事だと思っています。

(佐藤淳委員)

16 ページの人口動態だったんですが、こちら、推計は社人研を使っているのですが、今後この推計を基に数値的な目標を作っていくのか。もし作っていくのでいくのであれば、今、帯広市の人口ビジョンを策定しました。この数字を使っていく方が直近の情報を反映しているのではないかと思います、その確認をさせていただきたいのと。それから 21 ページの公共施設の状況等ですけども、例えば緑ヶ丘公園と帯広の森運動公園を見てみると、帯広の森運動公園と一つの区切りで書いてあって、緑ヶ丘公園の方には植村直己記念館とか細かくかいてあるんですね。それと帯広市生活館ふくろう館が書いてあったり、表記の重さのバランスというのは特にないのかなと思って質問させていただきました。

(帯広市)

人口動態については、人口ビジョンの方に置き換えさせていただきたいと思います。

(北海道開発技術センター)

公共施設の方を私の方から説明させていただきますけども、こちらに記載させていただいた根拠として、帯広市さんのホームページに掲載されているものを基準という

形をとっておりまして、どこを基準としてとるのかというところは問題としてございましたので、こういったバラツキが若干あるのかなと思います。そういう方向につきましてはまたちょっと検討させていただきたいと思っております。

(長澤委員)

これは3月末に素案を作っていくという事なので、それまでの間にこれに対して何かあったら直接連絡するとか、そういうの。

(帯広市)

はい。今日ご説明させていただいて、すぐ資料見てその場でご意見というのも難しいと思いますので、資料もボリュームがございますので。ですので、意見は私ども商業まちづくり課の方にメールでも電話でもFAXでもかまいませんので、気が付いた点がございましたら、随時ご意見をいただきたいと思います。それらの今日いただいたご意見ですとか、そのご意見をまた事務局としてまとめさせていただいて、来月末の第5回の協議会の時にご提示したいと考えております。とりまとめ等の時間もございますので、2週間ほどご意見の期間を取らせていただくという事で、2週間後の3月11日金曜日くらいまでにご意見を頂戴できればと思っております。

(中尾会長)

どうでしょうか。今回はちょっと事前に資料配布するというのは大原則だと思うんですけども、今回はかなりハードな中でこういう形になりましたので、3月11日を目途に皆さんからこの後何かあれば、どんどんご意見をいただいて、それを基にチューニングをして、そして、素案として3月末の会議もその場で配るのではなくて、事前配布するような配慮をさせていただいて、皆さんがある程度、それぞれの方がチェック出来るような形にして、最終3月の終わりごろにお集まりいただいて、チェックをしていただくという形になれば一番いいかなと思いますので、そのような形で一つご理解、ご協力をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

特に今この場で質問したい方がいらっしゃれば、どうぞご遠慮なくご意見をいただければと思いますが。全体としてよろしいでしょうか。ありがとうございます。

事務局より次回の会議、今後のスケジュールについて説明。

3. 閉会

(中尾会長)

それでは第4回の活性化協議会、これで終了させていただきます。お疲れさまでした。ありがとうございます。